

# 女川町 支援活動レポート

2011.11.25 ~ 2011.11.27

(宮城県牡鹿郡女川町 各所にて)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成23年12月7日(水)  
東北被災地応援団 白金支部

## 女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により亡くなられた方のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に対し心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

### 1. はじめに

今回の女川町支援活動は、10月23日に東京で開催しました 東日本大震災チャリティーコンサート「がんばっぺ東北！」にご協力をいただきました仮設住宅（内田地区・針浜地区）へ、お礼の気持ちを伝えに行きました。

それとは別に支援活動がほとんど入らない旭ヶ丘のゲートボール場仮設住宅・南地区仮設住宅でREALeYEさんと合同で活動を行いました。課題としては、各仮設住宅にお住まいの居住者さん同士のコミュニティ形成を促すようなサポートを心がけました。

ここ何ヶ月か被災地における「もらいなれ」や、ボランティアによる過剰な物量支援による「就業意欲の低下」が話題にあがってます。その辺りを考えた時、今後の活動内容や方針を見極めるためにも大事な活動でした。

震災の被害に遭われた地域は未だ有事です。避難所から仮設住宅に移り、いくらかのプライバシーを保てるようになっただけに過ぎません。今回の活動を私達の周りに伝えることで、少しでも多くの方に継続的な支援を実施していただける環境作りと、被災地の皆様の笑顔を取り戻すことが出来るよう活動していく所存です。

### 2. 現在の女川町について

震災より8ヶ月、朝晩はとても冷え込み、東北の寒い冬が訪れた感がありました。現在は町民約5,000の方がいらっしゃいます。そのうち6割は仮設住宅での生活を余技なくされています。全避難所も閉鎖され、総合運動場内の野球場敷地に建てられた3階建仮設住宅への入居も済んでいました。いくつかの商店は、場所や形を変えながら営業を再開するなど嬉しいNEWSもありました。



上手に積まないと大変なことに



他の車も荷物満載



後方支援の方々交えて出発前



明け方の三陸自動車道を北上

### 3. 活動報告

今回現地入りしたのは15名です。車3台とトラック1台に荷物満載での再訪。訪問したのは、宮城県牡鹿郡女川町の「旭ヶ丘 ゲートボール場 仮設住宅 16戸 45名」、「旭ヶ丘 南地区 仮設住宅 17戸 52名」、宮城県石巻市の「内田地区仮設住宅 23戸 71名」、「蟹田地区仮設住宅 31戸 88名」、「石浜地区在宅避難者 12世帯」になります。青空昼食会や青空市場、お茶会はあくまで仮設住宅より出てきていただく「きっかけ」であり、いかに長く滞在してもらえるかが鍵となりました。長テーブルや長椅子を多めに持込み、多くの方でテーブルを囲んで一緒に食べ、他愛もない日常会話からコミュニティ形成のサポートをメンバー全員が意識しました。

以下、活動内容について報告します。

#### (1) 準備期間、支援物資

A. 準備期間：2011/10/24 ~ 2011/11/25

B. 青空昼食会（炊き出し）

- ・ 陽子の激旨煮込みハンバーグ 280 食分
- ・ ポテトフライ 280 食分

・ポテトサラダ	280 食分
・ゴージャス浅漬け	280 食分
・ビール、酎ハイ	各30本
・日本酒（熱燗）	4本

#### C. 青空市場（支援物資）

##### ■食品関係

・お米	140袋
・野菜セット	140セット
・レトルト食品（おかゆ）	50袋
・離乳食（数種）	80袋
・その他	

##### ■日用品

・洗濯用液体洗剤	200 本	（NSファーファ・ジャパン株式会社さまより）
・洗濯用柔軟剤	200 本	（NSファーファ・ジャパン株式会社さまより）

##### ■依頼品

- ・石油ストーブ（石浜在宅避難者より）

#### D. お茶会

- ・お茶、コーヒーなど
- ・お茶請け

#### (2) 活動レポート

被災から、8カ月が経過した。

11月に入り、宮城は徐々に寒い冬に入る様子であった。

被災地の状況が、日々気になっていた。

マスメディアやインターネットの情報が、被災地の新しい店舗や、新たな活動を伝え、被災地から小さな芽が出てきている事をうれしく思う一方、実際に足を運び、確認していない情報に確信は持てなかった。

物資支援や、青空昼食会をこのままの形で続けて行く事が、被災地の方々の望みなのか、そろそろ考えなくてはいけない時が来ている事を強く感じていた。

#### 2011年11月1日(火)

何度かのミーティングを行い、被災地の現状を、調べ、話し合った。遠い被災地の方々の心情をしっかりと汲み、状況に合った支援活動が出来る様に、皆で考えた。今回の活動は、今後の支援活動の方針を変化させていく上で、分岐点となる活動となる為、活動に参加する一人ずつが、しっかりと自覚を持ち、被災地の方々とよくお話をさせて頂く事が大切であった。

その為には、いつも以上に、スムーズな活動をする必要があった。

#### 2011年11月19日(土)

支援物資仕分け。送って頂いた野菜、みかん、米、菓子、洗剤、等を仕分けしていった。多くの新鮮な野菜、多くの物資に感謝をしつつ、今回活動及び物資支援をする4か所に、色分けし、仕分けしていった。現地でのスムーズな活動の為に、欠かせない準備であった。地味で、時間のかかる作業であったが、これも大切な支援活動の一環である。

#### 2011年11月24日(木)

青空昼食会、仕込み開始。

今回のメニューは、煮込みハンバーグ、ポテトサラダ、ご飯、フライドポテト、浅漬けであった。全ての材料を刻み、練り、煮込み、漬け…気の遠くなりそうな作業である。後方支援の方達が2日ばかりで仕込みをして下さった。美味しそうに出来た、煮込みハンバーグ、せっかく作ったのに、食べられず、被災地の為に、と頑張って下さった。あたりは、玉ねぎの香りに包まれた。言葉にすると、ほんの数行になってしまう事がもどかしい。しかし、後方支援の方々無く、我々の活動は全く成り立たないのである。彼らの心をも、運ぶ事が我々の使命である事を再認識した。

#### 2011年11月25日(金)

朝から、後方支援の方々による、青空昼食会の準備が着々と続いていた。

現地入りスタッフコアメンバー全員の認識の甘さから、トラックに荷積みをする時間が遅れていた。出発時間になり、初参加して頂くメンバーの方々、後方支援の方々をも総動員して、荷積み作業を進めた。慣れないレンタカーであり、手間取ったものの、作業メンバーが

多かった事もあり、それ程の時間を要さず、荷積みが終わった。不幸中の幸いであったのは、全員が物資の量や、機材の状態を認識出来た為、現地にて、指示を待たずにスムーズに各々が動ける事が増えた事であった。

### 23時 出発

車3台、トラック1台、一斉に北上する事となった。

東京においても、底冷えする寒い夜であった。

何度か、運転手を交代しながら、東北自動車道を北上していった。

車外温度は0℃を指していた。降る程の星が瞬いていた。

### 2011年11月26日(土)

#### 3時

菅生PAに全ての車が到着。

各々車中にて仮眠をとった。



災害従事車輛の証明証



朝日がとても綺麗で

#### 6時

出発。

朝日が昇り始めると、周囲は、黄金色のカーテンの様に、紅葉が広がっていた。しばし見とれながら、石巻港ICを目指した。

体感温度も上昇し、暖かな日となった事に感謝した。

ICを降りると、営業している店舗が増えていた。飲食店、弁当屋。製紙工場も営業を再開しており、もくもくと水蒸気を上げていた。

しかし、さら地が多く、まだまだ被災を物語る多くの物がそこここにあった。

途中コンビニエンスストアにて、氷を購入した。

今回初の試みである、ご飯の提供をする為に、一升炊炊飯器を5台、物資提供用の石油ストーブを5台を、女川町のコンテナ村にて購入した。

これは、もちろん東京の量販店にて購入する事も可能であったが、出来る範囲で、女川町にて必要物品を購入する事も目的の一つであった。

#### 8時20分

女川町災害ボランティアセンターに到着。

最終ミーティング。皆、緊張と、明るさの中それぞれの役目を確認していた。

また、新たな取り組みとして、それぞれの名前が書かれた名札を配布した。これは、女川町の方々お一人お一人とお話をさせて頂くにあたり、自己紹介は必須であるとの考えから行った。

その後、それぞれの場所に分かれての活動となった。



木の屋石巻水産のくじらの缶詰



朝のミーティング風景



総合運動場内の3階建仮設住宅



「これよりもっと大きな桜をさあ〜」

以下、活動内容は、各グループリーダーの報告によります。

#### ◆Aグループ 担当地域：旭ヶ丘 ゲートボール場・南地区 33戸 97名 (青空屋食会・青空市場・お茶会)

リーダー・・・石川 サブリーダー・・・水澤

メンバー・・・井上、後藤、下神、仙頭 計6名

旭ヶ丘地区は、初めて訪問させて頂く地区であった。仮設住宅は、4つに分かれており、その間には、(震災の爪跡をあまり認めない)普通家屋が多く並ぶ形であった。高台に位置し、仮設住宅の抽選では、最も倍率が高かった地域である。戸数が少なく、炊き出し等の対象となるのは初めてとの事であった。

到着後、すぐ、仮設住宅の責任者である、平塚さんにご挨拶させて頂いた。とても理解のある方で、炊飯器2つ分の電源及び、トイレの貸出まで、全て笑顔で引き受けて頂けた。トラックから荷物を降ろし、青空市場、青空屋食会の場所を決めた。

日差しは暖かいものの、吹く風は冷たい為、あえて、テントはかけず、食事会を行う事とした。

井上、後藤は青空市場、下神、仙頭は昼食会の準備と分担し、準備した。煮込みハンバーグが煮えてくると、つられる様に少しずつ人々が集まり始めた。REALeYEの高橋さん(奥様)に、情報を頂き、石川・仙頭は、離れた仮設住宅まで行き、1戸、1戸声をかけて行った。“お酒もあります”とお話すると、笑顔がこぼれる事があった。井上、後藤の手際が良く、青空市場の準備はあつと言う間にすんでいた。地域の方が楽しそうに準備に参加して下さった。若い年代の女性は、友達が居ないし、どこにも行けないから、話せる相手が居て嬉しい、とおっしゃった。集会場の大きな机をお借り出来、素敵な青空昼食会の会場ができた。



女川町立病院より見下ろす女川中心地



旭ヶ丘地区仮設住宅へ到着



大量の支援物資(食材関係)

12時を回り、小澤、工藤の手伝いのもと、食事会開始。

慣れない様子で、出ていらした方々に、温かな料理を渡すと、小さく笑顔がこぼれた。“僕は人見知りだから、回りの方達と話すのは初めてなんだ”優しい女川弁で、ぼつりぼつりと話し始める60代の男性。被災の話、今の生活の話、昔の話、時に目が潤み、時に笑顔で話しははずんだ。下神、井上が率先して話し掛け、聞いてゆく。ゆっくり、すこしずつ、笑顔が大きくなる。離れた仮設住宅の方々も、ゆっくり加わり“はじめまして”とそここで挨拶が起きる。子供に蜜柑を渡すと、“甘い！”と笑顔になった。

水澤は子供達皆と上手に遊んだ。石川の持ってきたゲームは、前回同様好評を博した。

油の温度を上げるのに手間取り、フライドポテトが揚がるまで時間がかかってしまった。が、皆がポテトをワクワクと待っている様子も楽しい時間であった。

土曜日の日中は仕事にいらっしゃる方々もあり、食事は余っていた。しかし、REALeYEの高橋さん(奥様)の機転で配る予定のなかった仮設住宅に配らせて頂き、食事は全てなくなった。

青空市場は、食材、物資共に、手から手に渡った。やはり防寒具は売れ行きが良く、毛布は、即席じゃんけん大会の景品となった。振り返ると、仮設住宅は、巻かれた断熱材も、すでに、だらりと垂れてきていた。これからの寒い季節を乗り切るには心配が残った。



青空昼食会の準備中



たまには働いてるところを見てもらわないと



今日の昼食会はこんな感じです



なかなか難しい。。

平塚さんに秋刀魚のつみれみそ汁を振舞って頂き、恐縮しつつも、頂くと、美味しい!! 優しい味が心に響いた。杉山さん (REALeYEからのご紹介) が、一人、一人、似顔絵を描いていくと、嬉しそうに、恥ずかしそうに、大切に抱えて持っていかれた。“どこに飾ろう...”心が浮き、何度も絵を眺めていた。そんな状況も手伝い、14時半を回り冬の太陽は傾き、冷たい風に手を磨り合わせながらも、机のまわりには人が残り和やかな雰囲気が続いたポットを仮設から持ち出し、我々にまで、コーヒーを振舞って貰う。どんどん話をして下さる。“ありがとう。初めてお話した方々がいましたよ”声をかけて頂く。我々が目的としている事(新たなコミュニティの形成)も瞬時に理解し、行動し、伝えて頂ける。やはり、賢明な方々である。

15時撤収開始。名残惜しく感じて頂いている事を嬉しく感じた。またの再会を約束し、去る事となった。



REALeYE 高橋さんと打ち合わせ



素敵な似顔絵の順番待ちです

◆Bグループ 担当地域：内田地区・蟹田地区・針浜地区 94戸 259名（青空屋食会・青空市場・お茶会）

リーダー・・・石垣 サブリーダー・・・相原  
メンバー・・・近藤 加藤 安部 府川 石川 稚 計7名

朝から夕方まで内田地区・蟹田地区にて、青空屋食会+青空市場+お茶会+マッサージサロン+ネイルサロン、を実施。  
13時頃からグループを二つに分け針浜地区にて、青空市場+お茶会を実施しました。  
また、これらの地域のお母さん方はREALeyeさんによる、想いを蘇れミシン大作戦!!にご参加されました。  
多くの素敵な洋裁を作成し、10/23、白金で行われたイベントに出品頂いた経緯もあり、今回はそのご報告もかねた訪問でした。

【内田地区・蟹田地区】

今回初めて訪れる、内田地区と蟹田地区は所在地としては石巻市内にありますが、土地面積が不足している女川町で仮設住宅に入居できなかった方が主に居住されている地区です。

朝9時半 現地到着。早速荷降ろし。平行し、石垣、相原にて区長である林さんのお宅へご挨拶に向かいました。  
残念ながら区長さんをご不在の為、地域の方の推薦にて、内田地区をまとめている木村さんにご相談致しました。  
そのやり取りの中、新しいコミュニティーの形成を垣間見ました。

木村さんを筆頭に地区の方が自ら率先して、お手伝いを申し出て下さいました。

ネイルサロンやマッサージにも興味を示していただき、11時開始予定を10時半に前倒して開始しました。

ご高齢の方が多く、マッサージは予想通り好評でした。震災の影響は半年を経て根深く、震災のあの日、あの津波を思い出してしまい気持ちも身体もしんどいという方が多くいらっしゃいました。

ネイルも大変好評でした。施術後、嬉しそうに自分の指を眺める皆様が印象的でした。小学校低学年の女の子は、最初は照れくさそうでしたが出来上がった綺麗な爪にっこり笑顔がこぼれました。



内田地区仮設住宅で設営前ミーティング



石垣リーダーが率先して動きます



マッサージとネイルの準備完了

蟹田地区の区長 遠藤さんにご挨拶させて頂くと、土曜でも男性は働きに出ている方が多いと、教えて頂きました。

確にお母さん達ばかり。少しずつ以前の生活に近づけるよう前を向いて生活する姿がそこにはありました。

お母さん方はお茶もそこに炊事を手伝って下さいました。

用意した炊飯器の、3台のうち1台が失敗するというトラブルが発生したものの、他の2台は無事お米が炊け配食を開始しました。当日は、風が大変強く気温も低く、近藤の提案から、集会所の中での昼食会となりました。

メンバー一同、多くの方々とコミュニケーションを持たせて頂きました。

同じ女川町出身でも、広く、今故郷を離れてしまっていると感じている。

早く故郷に戻りたい。

仮設住宅は沢山の地域からの寄せ集めだから、寂しい。

苦しい胸の内を話して下さいました。



集会場の中でお母さん方と一緒に



ネイルは子供達にも大人気！！



こんなに綺麗になりました



マッサージ大変喜んで下さいました

13時。青空市場開催。

地区同士の対立を目にする出来ごとがありました。

今回の対象は両地区であることは伝えましたが、理屈ではなく感情なんだと思い、地区内の繋がりより地区同士の繋がりが今後の活動の目的の一つであると感じました。

今回お世話になった木村さんに、「また遊びに来てくださいね！」と。

絶対にまた来ます！

復興に向け徐々に前を向いている印象を受けました。

#### 【針浜地区】

相原、近藤、加藤は、針浜に移動。

この地区は9月の活動にて、訪ねた地です。

昼食は、別団体がちゃんぽんの炊き出しにみえていました。愛媛から13時間(!!)かけ、初めて来たという団体でした。

その思いは同じく、お茶を囲み和やかな時間となりました。

地区長の斉藤さんに、10/23のイベントにて、来場者の多くに喜ばれ、大盛況であったことを伝えると、とても嬉しそうに励みになると話してくださいました。

こちらでも、多くのお母さんから、心の変化をお聞きました。

生活が落ち着いてきて、思い出して悲しいしつらい。

死んでしまったみんなに比べたらどれだけ幸せなはず。幸せと思ってないとやってられない。

涙を浮かべられました。

震災から8ヶ月。多くの事を感じ、考え、変化してきている心情に触れました。

「忘れないで！みんなが思ってくれていることが励みになるから」

耳に残りました。



針浜のお母さん、小物ありがとうございました

以上、簡単ではありますが活動レポートとさせていただきます。

草の根的な活動ではありますが、少しでも早く東北地方が復興出来るよう微力ながら続けていこうと考えております。

今回の活動に物資ご提供いただいた皆様、支援金を寄付いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

それとともに引き続きご支援ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## 4. 活動成果

### (1) 経験、実績を残したこと

新たなメンバー5名を加え、支援の輪の拡大に向け新規メンバーが経験を積めた点

限られた時間内で、手際よく多くの活動内容をを進めることを、各グループのリーダーを中心にメンバー全員が経験を積めた点

きちんとした課題への意識をもって行動すること、またその効果測定が各自行えるようになり、次への課題抽出につながった点

各地区で被災者と近い距離感で話しを聞く機会が増えた点

### (2) 現地の状況を知れたこと

仮設住宅への移行が終わり、各地区仮設住宅のコミュニティの度合いや、他の仮設住宅との垣根があることがわかった点

明るく前向きな方々とコミュニケーションがとれたことで、幅広く情報を得ることができた点

### (3) ネットワークが持てたこと

女川町復興支援センターを始め、各仮設住宅の地区長さんなど、多くのキーマンとネットワークを持てた点

## 5. 今後の予定

### (1) 健康アライアンスJP勉強会にてプレゼン

12月9日(金) 港区新橋の新社会システム総合研究所セミナールームにて行われます「健康アライアンスJP勉強会」に参加。

健康関連の上々企業をはじめ、地方自治体など含め約50社が事業連携をすることを目的に開催している勉強会です。

こちらの場をお借りして、東北被災地応援団 白金支部が今までの支援活動、そしてこれからの支援活動についてプレゼンします。

(2) 女川町ページェント「灯～TOMOSHIBI～」に出店協力

12月17日(土)に東北被災地応援団 白金支部も出店にて参加協力。  
REALeYEさんと女川町コンテナ村商店街さんが中心となり行われるイルミネーションイベントです。  
「今も真っ暗な女川を希望の灯で包みたい・・・」との想いで企画されました。  
当日はミニアメリカンドッグ・コーンスープ・生ビール・スーパーボールすくいを出店します。  
売上の全額は、女川町の街灯設置資金に寄付いたします。  
少数での参加ですが、しっかり協力してきます。

(3) 女川町1月支援活動の予定

2012年 年初の支援活動は、1月21日(土)に女川町総合運動場にて「大餅つき大会+ミニLIVE♪」を予定。  
対象人数1,000人の大餅つき大会です。 マンパワーが必要なため、観光バスチャーターにて現地入ります。  
10月の東日本大震災チャリティーコンサートにご出演いただきました方々と一緒に、女川へ素敵な演奏と笑顔をお届けしてきます。

## 6. 補足事項

(1) 参加者 (敬称略/順不同)

工藤 史大	水澤 秀之	石垣 健	相原 朋子
石川 篤史	近藤 尚之	加藤 聡	下神 妙子
仙頭 淳子	府川 めぐみ	井上 八重子	後藤 直子
小澤 徹	石川 稚子	安部 由美	

(2) 後方支援者 (敬称略/順不同)

川端 陽子	小澤 雅志	橋本 翔二	藤本 佳代子
小澤 静子	藤原 朗	斉藤 秀朋	藤川 芳江
若本 智子	池上 珠子	石川 重美	

(3) 支援物資提供 (敬称略/順不同)

NSファーファ・ジャパン株式会社	日本栄養士会	みかん類専門 たけひこオレンジ農園
和光堂株式会社	有限会社ネスラップ	有限会社アイジャパン
煉瓦亭	株式会社静文堂	宮川内科小児科医院
河野医院 (インフルエンザワクチン)		

川尻 由美子	津山 雄一	津山 幸	池上 裕子
石川 俊子	山口 恵子	飯星 広徳	飯星 美樹
真船 浩太郎	杉山 彰康	清水 茜	山下 祐一
山崎 亜子	金子 証代	高橋 道子	大熊 ミキエ
森 トシ子	吉野 孝司	石川 稚子	

(4) 支援金寄付 (敬称略/順不同)

Rapha 鍼・灸・マッサージ 患者募金	ホルモン焼き夏冬	白金杯一同
----------------------	----------	-------

野田 春代	辻井 千恵子	田嶋 朝子	高橋 道子
寺田 恵子	小室 順子	海野 節子	菅野 のぶ子
三浦 利子	府川 めぐみ	安部 由美	後藤 直子
井上 八重子	相原 雅子	相原 朋子	仙頭 淳子
工藤 史大			

(5) 行政支援

港区防災課 様 「災害派遣等従事車両証明書」の発行

(6) 現地受け入れ先



宮城県女川町災害復興支援センター（旧：災害ボランティアセンター）様

(7) 現地協力団体

REALeYE（高橋 圭介 様、高橋 一枝 様）

皆様からのあたたかいご支援・ご協力のうでで成り立っております。

本当にありがとうございました。

継続して被災地への支援活動をしていきますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



平成23年12月7日

東北被災地応援団 白金支部

★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

---

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2011 Tohokuhisaichi-Ouendan All Rights Reserved.